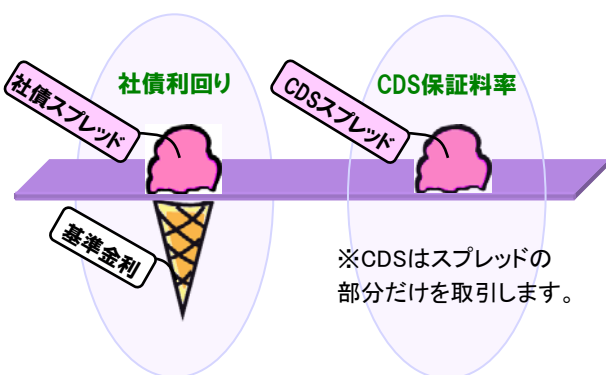


『リスクのモノサシ～CDSスプレッドとは？』



債券を保有したまま信用リスクを移転することができるCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)取引。今回はCDS取引の保証料率であるCDSスプレッドについて解説します。

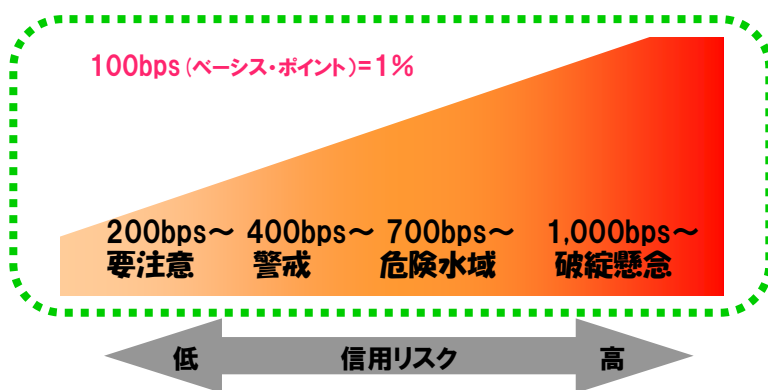
<社債利回りとCDS保証料率の構造>



CDスプレッドは発行体ごとに決められています。たとえば社債と比較した場合、社債ではLIBOR(ロンドン銀行間取引金利)のような基準金利に社債スプレッドを上乗せした社債利回りで取引されます。一方、CDSではスプレッドの部分だけを取引します。なお、CDSスプレッドはCDS取引の保証料率でもあり、元本に掛けて算出したものがその取引の保証料となります。ちなみに、CDSスプレッドは年率換算のベシス・ポイント(bps・bp)で表示されます。1bpは0.01%です。

発行体の信用リスクが高くなると上昇することから、CDSスプレッドは経営破綻などの信用リスクを判断するいわゆるモノサシのようなものといえます。たとえば、市場関係者の間では「CDSスプレッドが200bps(2%)を超えると要注意」など目安となるゾーンがあるようです。特に1,000bps(10%)を超えると、一般的に発行体の破綻リスクが高いとされ、通常は定期的に行われるCDS取引の保証料のやりとりが一括の前払いになるなど、取引条件が厳しくなります。

<CDSスプレッドと信用リスクとの関係>



※上図は発行体のリスク状況の目安をイメージ化したものです。

また、国内の主要企業のCDSスプレッドを平均して算出されるアイ・トラックス・ジャパンといったCDS指数は、株式でいえば日経平均株価などの株価指数に相当するもので、金融市場における注目材料の一つともいえます。市場や話題の企業の動きを知る上で活用してみたいかがでしょうか。

関連レポートはこちら

[ベーシックワード解説『信用リスクを取引～CDSとはどういうもの？』](#)

※巻末のご注意事項等を必ずご確認ください。

※本コラムでは企業のCDSスプレッドを題材に説明しており、実際とは異なる場合があります。

【投資信託に係るリスクと費用】

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。

投資信託に係る費用について

[ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

■お客様が直接的に負担する費用……購入時手数料: 上限3.675%(税込)

信託財産留保額: 上限0.5%

■お客様が信託財産で間接的に負担する費用……運用管理費用(信託報酬): 上限1.995%(税込)

■その他費用・手数料……上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。

投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認下さい。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、DIAMアセットマネジメント(株)が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。

【ご注意事項】

- ・当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- ・当資料は情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ・当資料における内容は作成時点(2012年9月11日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

投資信託は

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。